

2021年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

これまでの授業改善に係る実践研究の成果をベースに、より一層の教員の指導力向上を図るとともに、学習のみならず、学校生活全般にわたって主体的・協働的に活動できる生徒の育成に努め、生徒の多様な進路実現を着実に支援する指導の改善・充実に重点的に取り組んだ。また、本校が育てたい生徒像（小杉高等学校グランドデザイン）に基づいて、生徒の自己評価（小杉高等学校 Graduation Policy）も行った。

(1) 学力向上

これまでの授業改善に係る実践研究の成果を活かし、今年度も主体的な学習活動の充実と学力向上を図るため、全校体制で授業研究に取り組んだ。その結果として、定期的に生徒が記入する「学習と進路の自己診断シート」の集計結果では、「計画や目標を決めて学習しようとしている」や「ペアやグループなどで発言や意見交換することで新しい知識を得たり、理解が深まったりするので積極的に活動しようとしている」生徒の割合が高く、学年の後半になるほど増加している。これは、生徒と教員の親和関係が成立しており、生徒は安心して授業中の活動において積極的に考えることに加え、真の学力をつけたいという意欲が育ってきたことがうかがえる。

今年度も昨年度に引き続き、授業公開WEEK（互見授業）やICT機器活用や授業方法に係る研修会等を実施し、今年度の研究テーマ「ICTを活用したAL型授業の推進」に係る研究を進めた。全教科連携のもとICT機器を積極的に取り入れるとともに、グループ活動やプレゼンテーションの機会を積極的に取り入れ、生徒が自らの考えや意見を相手に分かりやすく伝えようと工夫する積極的な授業改善が引き続き行われている。

(2) 基本的な生活習慣の定着

規則正しい生活を送り、身だしなみを整え、明るく挨拶を交わすことができるなど、基本的な生活習慣を身に付けることは社会生活の基本である。そのことを踏まえ全職員が指導場面において、生徒の時間厳守に対する意識を啓発したことにより、1年間皆勤生徒の割合が増加した。また、生徒会執行部と自律委員会、保健委員会が中心となり、統一HRでスマホ使用について改善点を話し合った。スマホの利用については生活習慣などの自己管理能力にも繋がることから「小杉高校ネットルール」を改善するとともに、それらについて生徒への啓発活動を行った。

(3) 生徒の自主的な活動

新型コロナウイルス感染症の防止のため、生徒の活動が大きく規制され計画どおり実施できないものがあった。その中で体育大会や文化部発表週間では、生徒会が中心となり新型コロナウイルス感染症の予防対策を施すなど運営方法に工夫しながら、全校生徒が意欲的に取り組んだ。様々な制限が課せられた中で、教員と生徒が連携し工夫をしながら学校全体で取り組むことで、改めて活動の意義やあり方を考える機会になった。また、生徒会活動では「拡大生徒会執行部」と称して、複数の委員会が連携して行う活動を増やし、活動内容や企画の案内等を生徒の目につきやすい場所に設置し活動を可視化した。生徒が当たり前のことを当たり前にできない状況で、目標を見失わないように工夫した取り組みがなされていることがうかがえた。

7 次年度へ向けての課題と方策

全校体制で継続的に授業改善に取り組んだことにより、生徒が主体的・協働的に授業へ取り組む姿勢が高まったと思われる。しかし、学習面において、深く学びを追求しようとする意欲は不十分であり、今後も生徒の学習意欲を高めるようなICT機器を効果的に活用した主体的で対話的で深い学びを引き出す授業や、新学習指導要領における観点別評価のあり方を、様々な授業実践を通していかに適切に行うか課題がある。

また、スクール・ポリシーの策定により、育てたい生徒像が明確となった。入学してから卒業まで整合性のある方針で、学校評価に照らし合わせて全職員が共通理解を図りながら取り組んでいく必要がある。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 1 -	
①重点項目	学習活動（学びに向かう生徒の育成）
②重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出すための授業改善と生徒への支援
③現 状	<ul style="list-style-type: none">・主体的、対話的で深い学びを引き出す授業研究に取り組むため、年2回の「公開授業WEEK」と、外部講師による「公開授業研究会」による研究・協議を通し、生徒からの授業評価も含めた授業改善に取り組んでいる。・教務部の中に情報・ICT教育係を設置することで、今年度より生徒に一台ずつ配布されるタブレットパソコンを授業で有効に活用できるよう研究を進めている。
④達成目標	新しい生活様式の中で主体的な学習の取り組みを行うにあたり、下記方策の各項目で前年度と比較し向上が見られること。
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none">・「授業公開 WEEK」で新たな研究課題に向けた各自の授業実践により、生徒の自己評価や授業評価、教員の自己評価を通じて、授業の改善と指導力の向上を図る。・新しい生活様式の中でも効果的な授業を行うため、Google Classroom等の教育用クラウドプラットフォームや、ICT機材の有効な活用方法の研究を重ねる。
⑥達成度	公開授業WEEKにおける授業実践で生徒の自己評価平均は3.7（昨年3.7）と教員の自己評価平均は3.5（昨年3.5）であり、昨年度と同様の数値だったが、グループ学習による効果を補完するだけでなく、様々にICT機器を活用する等、新たな授業方法の研究が進んだ。 Google Classroomによる双方向のオンライン授業では、本校の時間割どおりに実施するため事前研修を充実させ、授業計画に沿って全ての授業を計画通りに実施できた。
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・公開授業WEEKや公開授業研究会では、ICT研修の成果を応用した様々な方法でタブレットパソコンを活用した授業実践を行い、生徒からの感想や評価のフィードバックし日々の授業に活かすことで、生徒への支援を充実させた。  <ul style="list-style-type: none">・タブレット研修会、Google Meet研修会、Google Classroom研修会、JamBoard研修会、Google Form研修会、アクティブラーナー授業実践動画研修等、ITCを活用した授業実践を推進するために関係部署と連携し、教員のICT活用能力向上に努めた。 
⑧評 価	B 「授業公開WEEK」の授業実践の生徒の自己評価や授業評価、教員の自己評価が前年度と比べ遜色がないことと、新たにICT活用のための実践的な研修を充実させたことにより、今年度の目標はほぼ達成したと考える。
⑨学校関係者の意見	・小杉高校は授業改善のための教員研修を長年にわたり継続的に行っている。今年度は特にコロナ禍でのオンライン授業に力を入れており、例年とは異なる手応えがあったのではないかと。⇒オンラインの方が積極的に授業に参加する生徒もいた。
⑩次年度へ向けての課題	・新学習指導要領における観点別評価の在り方を、様々な授業実践を通していかに適切に行うか、研究を進める。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和3年度 小杉高校アクションプラン		- 2 -
①重点項目	学校生活（生徒指導）	
②重点課題	高校生としてふさわしい基本的な生活習慣や態度をしっかりと身につける	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は各学年での1年間の皆勤（遅刻、欠席、早退なし）の割合は約38.3%であった。（1年40.5%、2年39.1%、3年35.3%） ・時間厳守の意識が年々少しずつではあるが身につけてきており、ここ3年間で、皆勤生徒の割合が10.2ポイント上昇した。社会に出て行く上で時間を守るということは信頼性のある人間関係を築く上でも大切なことであり、その意味合いからも自己管理ができるように促す。 ・スマホでのネット利用やSNS等の使用時間が2～3時間の生徒が多い。なかには4～5時間以上利用している生徒もいる。スマホやSNSにのめり込んで、睡眠不足・学習に悪影響があった」と感じる生徒もいる。 	
④達成目標	各学年で1年間皆勤 （遅刻、欠席、早退なし）の生徒の割合	スマホ使用について考え、改善できた生徒の割合
	40%以上	60%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が指導場面において、生徒の時間厳守や服装に対する意識を啓発し、学校全体としてルール、マナーを守っていきこうとする気運を高める。また様々な機会を利用して皆勤の意義について説明し、1年ごとに学年皆勤賞をつくり表彰する。 ・生徒会執行部や自律委員会を中心に全校生徒に向けアンケートなどを利用して、「スマホ使用ルール」を互いに指摘し合ったり、統一HRなどでスマホの使用について考えるとともに、家庭でのスマホ利用についても考える機会を設けたりする。 	
⑥達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年での1年間皆勤率（遅刻・欠席・早退） 全体42.0%・・・資料① 1年46.5% 2年38.9% 3年40.0% (1/14現在) ・スマホの使用について意識できた 全体57.5%・・・資料② 勉強している時は通知をOFFにしている 54.8%（前年比+30.7） 寝る前の30分はスマホを使用していない 23.4%（ ” +17.4） 	
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が学期はじめの玄関指導や毎月の頭髪服装指導・身だしなみ指導だけでなく、普段の学校生活の中でも積極的に声かけ、指導を心がけた。 ・生徒会や自律委員会が中心となって、統一HRでスマホ使用について改善点を話し合い、クラス目標を掲げた。また、使用に関する意識調査をアンケートで集約した。 	
⑧評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤率については昨年より4ポイント近く上昇した。 ・スマホの使用ルールについては、問題点を意識することはできているが実践まではつながらなかった。
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの利用時間を見える化してはどうか。今日は何時から何時まで利用したかを手帳に書いたり、タブレットを利用してグラフ化したりしてはどうか。 	
⑩次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ使用の意識向上について、引き続き統一HR等を通して生徒自身が考える機会を設け、改善につながるようにしていきたい。 ・スマホの使用については睡眠時間などの体調管理にもつながるので、時間を守ることや規範意識についての自己管理も含め、家庭との連携を図りながら引き続き指導していきたい。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

①重点項目	学校生活（保健指導）	
②重点課題	・ 基本的な生活習慣の確立と生活時間の自己管理能力向上	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・健康セルフチェックの結果では、睡眠、スマホ使用について改善したいと答える生徒が依然として多いが、実際に「改善できなかった」数値が一番高いのもスマホ使用である。全体として長時間使用の傾向は進んでいる。 ・改善するために計画的に時間をコントロールしようとか、その手法を考えようなどと努力している生徒は少ない。 ・コロナ禍の中、手洗い等体調管理を意識する生徒が増えた。 	
④達成目標	健康的な生活を目指し生活時間を改善できた生徒の割合	
	75%	
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察や定期的な健康セルフチェックを通して自分の生活習慣と時間の使い方を見直し、自ら考え改善できるように促す。 ・生徒保健委員会の主体的な活動を充実させ、生活時間改善の意識を高める。 ・学校保健委員会や健康講話、保健だよりを通して生活習慣の重要性や時間の使い方について考える機会を増やし、学校と家庭の連携に努める。 	
⑥達 成 度	「課題となる項目を改善できた」、「少し改善できた」と回答した生徒の割合は、7月アンケートでは76%、12月アンケートでは79%であり、目標数値は達成できた。	
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・健康セルフチェックアンケートによると、生徒が最も改善したい項目の1位は、各学年ともメディアの時間、第2位が学習、そして第3位は睡眠時間であった。多くの生徒に共通する問題が、スマホであるであろうこと、スマホ利用の時間が改善されることで睡眠時間や学習時間など、生徒の抱える問題が改善されるであろうことが考えられた。 ・11月に保健委員進行のもと、「生活習慣改善のための、スマホとの良いつきあい方について」と称して統一HRを持った。そこで出た「成功している人の体験を知りたい」という意見から、スクリーンタイムというアプリを利用してスマホ時間を自主的にコントロールする試みをスタートさせた。モニターとして保健委員、自律委員、生徒会執行部（ホーム長、副ホーム長含む）の約60人に依頼し、スクリーンタイムを使ってみた期間の感想をまとめている。第1回のアンケートでは「スクリーンタイムの使用により、スマホ使用の改善が望めそう」と答えた生徒が54%であった。 ・今年度末までに計3回の試行を計画しているので、その結果を検証し、スマホのアプリをむしろ有効活用して、生活習慣の改善につなげたいと考えている。 第2回のアンケートは2月2日にとる予定である。	
⑧評 価	A	数値的には達成できた結果だが、生徒の感覚での回答であることに問題を感じている。ただなんとなくの改善ではなく、何らかの積極的な手法に取り組んでのちの改善になるよう、工夫をしたいと考えている。
⑨学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇すべき、〇〇させるという押しつけではなく、自主的に自分を管理する。自分で自分の生活を管理することができる取り組みは時代に合っていて良い。 ・現在モニターが60名ということだが、今後いかに浸透させていくか、食いつくような仕掛けをするかが大切である。座談会などを催してはどうか。 	
⑩次年度へ向けての課題	生徒会がスタディウイークという学習習慣づくりの運動を全校に呼びかけて実施しておりこの保健委員会の取り組みにも積極的に協力してくれている。モニター60人による成果や課題が明らかになったなら、自律委員会、生徒会という生徒の組織を横断的に活用して、より多くの生徒の生活習慣の改善につながる全校的な取り組みにしていきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 小杉高校アクションプラン - 4 -

① 重点項目	進路・キャリア支援										
②重点課題	3年間を見通したキャリア教育の推進と進路実現										
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「手帳」は学年ごとの取り組みはあるものの、小杉高校全体の共通の活用法は確立されていない。 ・具体的な進路目標の決定が遅い生徒や将来やりたいことがわからない生徒がいる。また、具体的な目標が定まっても自主的、意欲的に学習に取り組まず、十分な準備のないまま上級学校の入試に臨む生徒も見られる。 										
④達成目標	全学年 高校生活を過ごす上で 手帳を活用できたと考 える生徒の割合	1・2年生 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時 間」が、系列選択や自分の生き方・考え方 などの参考となったと考える生徒の割合	3年生 進路決定先に満足し ている生徒の割合								
	70%以上	80%以上	80%以上								
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通したキャリア教育を計画的、継続的に行い、職業観や就業観を育み、進路意識の向上をはかる。 ・「手帳」を活用することにより、時間の使い方や自分の行動を振り返る習慣を身に付け、自ら学び主体的に行動できる生徒を育成する。 ・継続的な個別面談により、早期に進路目標を設定したり、学習意欲を喚起したりする。また、小杉高校GPの8つの力を育成し、GP自己評価によって生徒の実態を把握し、面談や進路指導に生かすことで、生徒の能力を伸ばし、多様な進路実現を目指す。 										
⑥達 成 度	<p>「はい、どちらかというとはい」と回答した生徒の割合（2学期末）</p> <table border="1"> <tr> <td>全学年共通達成目標</td> <td>1年 36.5%</td> <td>2年 44.6%</td> <td>3年 72.8%</td> </tr> <tr> <td>学年別達成目標</td> <td>1年 92.3%</td> <td>2年 76.4%</td> <td>※3年 73.7%</td> </tr> </table> <p>※進路未決定の生徒が未回答だったので、3学年の達成率は実質80%を超える。</p>			全学年共通達成目標	1年 36.5%	2年 44.6%	3年 72.8%	学年別達成目標	1年 92.3%	2年 76.4%	※3年 73.7%
全学年共通達成目標	1年 36.5%	2年 44.6%	3年 72.8%								
学年別達成目標	1年 92.3%	2年 76.4%	※3年 73.7%								
⑦具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対しては、新入生オリエンテーションを通して、手帳の活用を呼びかけた。また7月の職員会議で1学期末の達成目標の結果を職員と共有し、2学期以降の指導につなげた。 ・産業社会と人間と総合的な探究の時間に上級学校訪問、大学学部学科調べ、職業研究、系列科目登録説明会、社会人班別講話、進路ガイダンス等を実施し、生徒の系列選択や進路意識を高めた。 										
⑧評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳の活用については、3学年は目標を達成したが、1、2年生は目標に到達せず、1学期と比較すると、とりわけ1年生の落ち込みが大きかった。 ・キャリア教育関連の目標について、1年生は達成、2年生もほぼ達成した。一般受験の生徒や2学期末アンケート調査時点で合否判定待ちの生徒が未回答だったことを考慮すると、3年の進路目標は達成したといえる。 									
⑨学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳に記録することがどう自分にとって大切なのか、記録の大切さを生徒に話してあげてはどうか。 ・社会人班別講話を今は遠隔で行うこともできる。 										
⑩次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳に関しては、学級や教科の時間も含め、さらに意識して活用するよう職員の共通理解を図りたい。R3年度は、生徒一人一人にタブレットPCが支給されたので、次年度はタブレットPC等のデジタルツールの活用方法も考え、見通しをもって高校生活を送り、生徒の進路実現を目指したい。 										

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

①重点項目	特別活動	
②重点課題	特別活動やボランティア活動など生徒の自主的な活動の充実	
③現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やホームルーム活動、委員会活動において生徒会役員やクラス委員を中心に新たな企画の提案や取り組みを意欲的に行っており、主体的に活動する機会が増えている。 ・部活動やボランティア活動に熱心な生徒がいる一方で、特別活動が学校生活を充実させたという意識が低い生徒が1割以上いる。 	
④達成目標	学校行事や各種特別活動に自主的に取り組み、自己達成感を持つ生徒の割合	学校生活を充実したものにするために、実際に行動したことがある生徒の割合
	90%以上	90%以上
⑤方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と各委員会・クラス・部活動などが連携して活動を企画し、組織としての生徒会活動をより活性化させ、生徒の参加意欲を高める。また、体育大会、学校祭等学校行事では「一人一役」とし、役割意識を高めるとともにリーダー育成に努める。 ・部活動に関する問題点を洗い出し、自主的な運営方法など改善策について検討する。 ・校外清掃活動や地域行事への参加など生徒が人々の役に立ち喜ばれる機会を設けるとともに、ボランティア活動に関する情報をできる限り発信し参加する機会を増やす。 	
⑥達 成 度	過年度との比較を考えたとき、まだ実施できていない活動もあることからアンケートは実施していない。体育大会については、満足度93.9%、役割意識95.6%であった。	
⑦具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動では、「拡大生徒会執行部」と称して、生徒会執行部と委員長が定期的集まるようにした。そのことで、複数の委員会が連携して行う活動が増加した。 ・生徒会執行部の要望で、ホワイトボードを生徒玄関に設置した。活動内容や企画の案内等を生徒の目にしやすい場所に設置して、活動を可視化した。また、その横に意見箱を置き、生徒からの意見を聞くことができるようにした。さらに、全校生徒が集まる機会を捉え、活動報告をした。 ・文化部発表週間では、部活動や系列、芸術での授業での作品展示を行った。また、吹奏楽部と放送部、美術部が共同でステージ発表を行った。展示作品には目を見張るものも多く、生徒の良さに気づき相手を認めるきっかけとなり、自己肯定感の高まりへと繋がる活動であった。 ・合同ホームルームの企画・運営。 ・部活動では、顧問との連携を図り活発化した部活動がある反面、部活動に対する考え方の相違から悶々としている生徒もみられる。 ・コロナ禍で校外での活動が自粛される中、ボランティア活動は校内でできる活動を中心に展開した。 	
⑧評 価	C	アンケートを実施していないことため、判断が難しいことからCとした。
⑨学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でボランティア活動ができないということであるが、施設等と相談し、オンラインを活用することで、こちらの活動を外に配信することもできるのではないかと。 ・今年度は吹奏楽部と放送部、美術部が共同でステージ発表を行ったが、これからも異なる部活動のコラボレーションを是非行ってほしい。 ・ホワイトボードを玄関に設置することで、生徒会の活動が可視化できるのはとてもよい。 	
⑩次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を充実させるためには、自分たちが作り上げている、強く関わっているという実感が必要であると考え。そのためにも、生徒会からの投げかけが重要になる。現在の生徒会は機能し始めていることから、活動の継承と指導者の育成が課題である。 ・部活動では、身に付けさせたい8つの力を育むことができる活動である。顧問と生徒がともに作り上げていく意識をもち、満足感や達成感を高める活動に導いていきたい。 ・コロナ禍でもできるボランティア活動を模索し、ボランティアに対する意識の高揚を図りたい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)